

平成28年度 第2回 仙台市廃棄物対策審議会

議事要旨

日時：平成28年11月7日(月) 15:00～17:00

場所：TKPガーデンシティ仙台勾当台ホール6

I 次 第

1. 開会
2. 副市長挨拶
3. 委員等紹介
4. 協議
 - (1) 会長・副会長の選出について
委員の互選により、会長に吉岡委員，副会長に内田委員が選任された。
5. 議事等
 - (1) 事業ごみ等処分手数料の見直しについて
 - (2) 「WAKE UP (ワケアップ) ! 仙台」秋の集中キャンペーンについて
 - (3) その他
6. 閉会

II 出席委員数	出席	19名 (うち代理出席 1名 (坂川委員))
	欠席	1名 (中野委員)

III 議事要旨

議長 (吉岡会長)	議題に入る前に、進行に際し事務局から確認事項等はあるか。
ごみ減量推進課長	<p>本審議会の運営に関し、二点をご確認いただきたい。</p> <p>一点目は、会議の公開についてである。本審議会は公開を原則としており、本日の議事について非公開とする理由はないと思われるため、原則どおり公開としたいがいかがか。</p> <p>また、二点目は議事録についてである。本審議会の運営要領により、議事録には、会長と会長が指名する委員1名が署名することとしており、議事録の署名委員を選出する必要がある。なお、会議を公開とした場合には、議事録も公開となることを申し添える。</p>
議長 (吉岡会長)	<p>まず一点目について、会議を公開としてよろしいか。</p> <p>(委員より、異議なしの声。)</p>
議長 (吉岡会長)	それでは公開とする。
議長 (吉岡会長)	<p>次に二点目について、署名委員については名簿順に選出してよろしいか。なお、前回の署名委員は橋本委員であったため、今回は久田委員に依頼してよろしいか。</p> <p>(久田真委員より了承の返答あり。他の委員から異議なしの声。)</p>
議長 (吉岡会長)	久田委員には、後日、署名をお願いする。
議長 (吉岡会長)	<p>それでは次第に沿って審議を進める。活発かつ円滑な審議をお願いする。</p> <p>はじめに、議事の(1)「事業ごみ等処分手数料の見直しについて」、事務局より資料1に基づいて説明をお願いする。</p>
ごみ減量推進課長	【資料1について説明】
議長 (吉岡会長)	委員の皆様よりご意見等はあるか。
渡邊浩一委員	<p>手数料改定額とその根拠については了解したが、一つ気になる点がある。</p> <p>改定幅は50%であり、100%の改定幅としている都市もあるが、仙台市の前回改定時は43%であり、一般的には50%以内のため事業者への負担が懸念される。前回改定時は二段階で施行していることから、事業者への説明をしっかりと行い、「急に50%も改定するのは困る」という意見が出る場合には考慮してもらいたい。</p> <p>前回改定時に一度に300円を改定するという案が出た際には、商店街振興組合の反対が大きかったため、我々も市に意見し二段階施行となった。</p> <p>我々収集運搬許可業者(以下、「許可業者」)は事業者にご負担いただく立場にあるので、今回も一度に改定することに反対の声が大きければ、強硬なことを言うわけにはいかず、かといって負担を被るわけにもいかない。そういった事情にご配慮いただきたい。</p>
ごみ減量推進課長	改定幅については、他政令市の改定状況や負担割合を勘案し妥当と考えてい

<p>渡邊浩一委員</p>	<p>る。ただし、ご意見のとおり、事業者への説明では許可業者が矢面に立たされることになるため、市としても丁寧にご説明に伺いご理解いただきたいと考えている。</p> <p>100kg を超える搬入分の計量単位を変更したり、事業系紙類回収庫を増設したりと、今後のごみ減量による様々な負担軽減策も併せて行っていきたいと考えていることから、平成 30 年 4 月に一度に改定する案とさせていただいた。</p> <p>定期的に処分手数料額を見直すということだが、最終的に 100%まで負担率を上げるという意味か。あるいは、ある程度まで負担率を上げて固定するという意味か。他政令市では条例等により定期的な手数料額の見直しを定める事例があるが、仙台市も同様に条例等を定める予定か。</p> <p>また、負担率と併せてリサイクル率を考えるならば、今の時代なら二酸化炭素排出量など環境面での考え方についても一緒に定めていくのがよいと思うがどうか。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>定期的な見直しとは検証という意味である。本市の様々な手数料についても昭和 58 年から見直しを行っておらず、今年の 10 月に改定した際には、今後 4 年ごとにあるべき手数料水準を検証していくという方針を作った。</p> <p>今回の処分手数料見直しは、処分原価に対する費用負担適正化という面のほかにごみの減量という面がある。そういった意味では、仙台市一般廃棄物処理基本計画（以下、「基本計画」）を 5 年ごとに見直す際に、ごみ量の推移や施策などを振り返りながら、あるべき手数料水準について検証したいと考えている。検証の結果、水準の維持という判断になるかもしれないし、見直しが必要という判断になるかもしれない。</p> <p>そのような定期的に処分手数料を見直すサイクルの中で、ごみを減量した結果、二酸化炭素排出量の増減についても検証を行ってまいりたいという趣旨だ。</p>
<p>渡邊浩一委員</p>	<p>了解した。</p>
<p>海川一郎委員</p>	<p>見直しの趣旨はよく分かる。見直しの実施はすでに公表されており、排出事業者も覚悟していると思う。大規模な事業所は別として、営業ごみ袋で排出している事業者が多いため、袋代がいくら上がるのかが多くの事業者の関心事ではないか。</p> <p>1,000 円/100kg が 1,500 円/100kg に改定ということを気にしているのは大規模事業者だ。それ以外の事業者は許可業者との契約で価格設定がなされているため、結局は袋代がいくらになるかが分からないと事業者への説明時に話がかみ合わない。その点について事務局の意見を伺いたい。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>営業ごみ袋は税抜 185 円で販売されることが多いと聞いているが、統一的な値段ではない。というのは、袋の製造・販売は許可業者が行っており、金額には今回お諮りしている処分手数料のほか、袋の製造代金や販売代金、収集運搬の人員費、車両コストなどが含まれる。そのような形態で排出事業者と許可業者は契約している。</p> <p>今回の改定は袋代の一部の本市処理施設に搬入する際の手数料が対象であり、試算したものを示すなど、今後の説明会では事業者にとって分かりやすい説明に努めてまいりたい。</p> <p>袋代の内訳はそういった仕組みとなっているので、その中の手数料についてご審議いただきたい。</p>

海川一郎委員	<p>事業者は生身を削って仕事をしている。どこの事業所でも年度計画を立てて経費を計算しており、185 円の営業ごみ袋を何枚買っていくらなので、来年はこれぐらい上がるからこれぐらい予算計上しておくのが事業者だ。したがって、概ねでも袋の値段がいくらになるかを説明いただかないと、事業者にとっては実のある説明会にはならない。</p>
環境局長	<p>ご指摘はごもっともである。廃棄物事業部長の説明は、営業ごみ袋の値段を規定しているのは許可業者であり、市が許可業者に代わり袋代がいくらになると提示することは難しいという趣旨だ。</p> <p>そうではあるが、説明会では処分手数料の改定によりどれぐらいの影響がでてくるのか、きちんとイメージして頂くことが重要である。処分手数料の改定額を袋代に転嫁するとどれぐらいになるか、一つの試算としてお示しする工夫はできると思うので、対応させていただく。</p>
橋本啓一委員	<p>前回審議会の説明のとおり、平成 12 年から 15 年間処分手数料を見直ししておらず、今回適正な負担額について示したという経緯は理解している。また、平成 23 年 3 月に基本計画を策定した後に東日本大震災が発生し、その結果処分手数料の改定が見送られ、平成 28 年 3 月に改定した基本計画に則り、今回の見直しを進めていると回答をいただいた。</p> <p>改定基本計画では平成 28 年度から 32 年度までの 5 年間の目標が示され、「事業ごみの減量・リサイクルの推進」項目の中には、“処理費用の負担のあり方について、手数料水準の見直しを視野に入れた具体的な検討”という記載がある。</p> <p>このことについて、事業ごみは種類ごとに分別しリサイクルすることをルール化し周知徹底することが前提にあつてしかるべきと思うが、いかがか。</p>
廃棄物事業部長	<p>資料のとおり、焼却施設における展開検査の結果を踏まえ、リサイクル可能な紙類やプラスチック類が混入しているので分別するよう、排出先の事業者を市が直接訪問したり、許可業者に依頼するなどして指導を行っている。</p> <p>また、出前講座の実施や事業ごみの排出に関するパンフレットの配布、説明会の開催など啓発も行っている。今月も事業者向け研修会があるが、そのような場面を通して事業者に分別・リサイクルをお願いしている。</p> <p>このように、直接職員が訪問して話をするなど、汗をかいていく必要があると考えており、今後も力を入れてまいりたい。</p>
橋本啓一委員	<p>そういったことは処分手数料を見直す前や同時進行的に行わなければならないので改めて確認した。</p> <p>今回の処分手数料見直しにあたり、許可業者や事業者の意見を聴取した例があれば、どのような声があったのか聞かせてほしい。</p>
ごみ減量推進課長	<p>具体の改定額等の説明は今後行うが、既に許可業者や商工団体等を訪問し改定の方向性等について説明を行った。</p> <p>先日訪問したあるコンビニエンスストアでは、改定を実施するにあたっては、許可業者と市が連携し、現場に混乱が起こらないよう丁寧な説明をしてほしいという声を頂戴した。</p>
橋本啓一委員	<p>事業者団体等の意見を聞いていることは了解した。</p> <p>私自身がいくつか話を聞いた先では、排出する側の事業者に排出方法を理解いただかないと、収集運搬する方が大変という意見を頂戴した。</p> <p>また、許可業者は処分手数料に収集運搬費等を上乗せし徴収しているが、改</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>定を契機に許可業者間で激しい競争が生じることを不安に思う声も聞いている。競争が激化すると現場では混乱が生じると想定される。民間企業同士の話ではあるが、このような事態への対応として市が考えていることはあるか。</p> <p>許可業者を訪問した際、現在は一種類の大きさのみとなっていることが多い事業ごみ袋について、一回り小さいものを作ってほしいと依頼した。小さい袋だと、きちんと分別すれば排出量が少なくなったと実感できる。許可業者からは、全市で統一しないとサービスのアンバランスが生じるため、統一した取扱いが必要だという声を頂戴している。</p> <p>袋は市が作るものではなく、また民間企業間の話のためなかなか難しいところもあるが、全体としては許可業者が同じように分別・リサイクルに取り組み、サービスも同じように提供できるように、今後の説明を十分丁寧に行い意見交換してまいりたい。</p>
<p>橋本啓一委員</p>	<p>資料では、各政令市の現行処分手数料や改定の考え方を示しているが、他都市の経済状況等置かれている状況が異なることや、本市が長年手数料額を改定してこなかった事情を勘案すると、当局側の考えが適正か疑問に思われる。</p>
<p>環境局長</p>	<p>改定幅についてのご指摘と解した。水準は妥当と説明しているものの、改定幅が小さいとは考えておらず、今回の見直しにより、事業者には大きな負担をお願いすることになると考えている。</p> <p>今回は他政令市を参考に改定幅を決断したが、前回の改定とは異なり、事業者の分別・リサイクルに対する努力が負担軽減につながる枠組みをいくつか準備しており、既に必要な予算確保に向けて動いている。</p> <p>今後の事業者への説明では、そのようなことを含めた本市の姿勢や、ごみの分別・減量が必要であるという喫緊の状況、また、他政令市と比較し現在の本市の処分手数料の負担水準のあり方が一考を要する状況だということを併せて丁寧に説明しながら理解の促進を進めてまいりたい。</p>
<p>橋本啓一委員</p>	<p>事業系可燃ごみの約 22%をリサイクルできる資源物が占めており、仙台市の考えどおりにごみの減量が進んでいないので、処分手数料の改定によってリサイクルを推進しごみ減量を図るという考え方もある。しかし、本来ならば、改定前に事業ごみのリサイクル推進を行政側が徹底して促し、その後改定するという考え方もある。</p>
<p>環境局長</p>	<p>ご指摘のとおり、どちらの取組みが前か後かの議論はあると思われる。今回の本市の考え方としては、平成 32 年度の目標達成に向けて残り 4 年半弱という期間の中、リサイクル推進の取組みや分別ルールに沿った排出指導については、今年度も力を入れて実施したものの、次年度以降さらに強力に展開していきたいと考えている。処分手数料の改定によるごみ減量効果はあるので、36 万トンの目標を達成したいという考えからお諮りしている。</p>
<p>藤原直委員</p>	<p>排出側である商店街として一言申し上げる。処分手数料額は行政の裁量の範囲とと思っているが、5 割値上げというのは我々商業者からすると一般的に納得いくものではない。</p> <p>また、前回も意見したが、仙台市のごみ処理費用は他政令市の平均よりも高い。何とか処理費用を削減する努力をしてもらいたい。処理費用に含まれている減価償却の費用分が徐々に減少していくと、反対に事業者の負担割合は徐々に高くなる。処分手数料額を何とか安くできる方法を私どもも考えていくので、</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>行政も色々な方法を考えてもらいたい。</p> <p>ごみ処理費用の削減についてはごもっともである。本市では焼却施設の管理運営委託化を進めてきた。</p> <p>処理費用における減価償却分は低減していくが、施設の長期稼働のためには機能強化のための改修が必要だ。計画的な改修を行いつつ、一方で中長期的にはごみ処理に係る費用をいかに削減していくかという視点が重要である。本市も不断の努力を続けていくので、委員からもご助言いただきたい。</p>
<p>内田美穂副会長</p>	<p>事業者の負担軽減策として、無料で搬入できる事業系紙類回収庫の増設とあり、現在、環境事業所4ヶ所の設置を、事業者の協力を得て設置場所を増やすとのことだが、具体的にはどのような場所を想定しているのか。紙類を多く排出している事業者が、別の事業者を持って行くのか。同じ会社の中に無料で回収できる倉庫を設置するのか。</p>
<p>ごみ減量推進課長</p>	<p>事業者が資材や作業着を購入する際に、その店舗の敷地内に無料の回収庫が置いてあれば便利に使っていただけるのではないかと考えている。敷地が広く駐車場や敷地に回収庫を設置していただける小売店舗に働きかけを行っている。</p>
<p>環境局長</p>	<p>補足すると、市民向けにはみやぎ生協様の協力を頂き店舗敷地内に紙類回収庫を設置しているが、その事業者版をイメージしている。</p>
<p>内田美穂副会長</p>	<p>例えば資材を買う際に、紙類を持ってきて置いていくと無料で回収してもらええるということか。</p>
<p>環境局長</p>	<p>事業者が回収庫に紙類を置いていくと、別途回収業者が回収していくという仕組みを想定している。</p>
<p>泉洋子委員</p>	<p>教育関係にいたので、話を聞いて色々と納得した。処分手数料を改定することの説明についてはよくわかった。</p> <p>ただし、負担軽減に対する市の取組みについて、説明会ではもう少し具体的な説明をしていかないと、改定額のことだけで話が終わるのではないか。</p> <p>事業系紙類回収庫についてはより具体的な設置数、商店街への支援についてはどの程度の支援をするといったことなどをより具体的に説明しなければ理解いただけないと考える。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>おっしゃるとおりであり、例えば、事業系紙類回収庫がいつから何ヶ所に増えるといったことを資料に書きたかったが、現在働きかけを行っているところであり、具体的な記載には至らなかった。しかし、より具体的な説明の必要性についてはそのとおりである。</p> <p>なお、先ほどの焼却施設における展開検査の話についてだが、今年度は既に2工場で実施し、排出された事業ごみの中にどのようなものが混在していたか確認し、本市が直接排出先に伺い説明したところ、大幅に分別が進みごみが減ったという報告を頂戴した事例もある。こうした事例についても説明できるよう、これからの説明会では工夫してまいりたい。</p>
<p>海川一郎委員</p>	<p>仙台市では紙類や資源物等がきちんと分別されているかなどの様々な項目を設け、ごみの減量・リサイクルに積極的に取組む事業者を環境配慮型店舗・事</p>

	<p>業所として認定している。認定事業者数を増やすことは、分別やりサイクルに取り組む店舗・事業所が増え、資源を多く回収できることにつながる。</p> <p>しかし、現在の制度ではメリットが少なく認定数はあまり多くない。ステッカーや認定証がもらえるほか、どんなメリットがあるのかいつも考えている。認定を受けると得になることを打ち出したり、何かご褒美がもらえたり、そういったメリットが必要ではないか。</p>
環境局長	<p>認定事業者を機会あるごとに紹介する、広報によるメリットが考えられる。本市では様々な事業でちらしを作ったり、イベントのお知らせを差し上げたりする機会がある。ごみ減量やりサイクルに関する広報の際に、ごみの減量にご協力いただいている事業者として紹介することができるのではないかと考えた。次年度に向けてさらに考えてまいりたい。</p>
海川一郎委員	<p>認定事業者になると排出するごみは減ると考えられる。また、ごみのことだけではなく、従業員に対する教育など様々な環境配慮活動を含めて認定しているのが仙台市の制度だ。認定事業者に対するメリットについては、もうひとひねり欲しい。</p>
環境局長	<p>現状としては確約できないが、もう少し粘って考えさせてもらいたい。</p>
議長（吉岡会長）	<p>ぜひ、検討を進めてもらいたい。</p>
遠藤智栄委員	<p>環境教育やクリーン仙台推進員の研修等に関わっているが、市民は事業者の排出するごみ袋をよく観察している。どのようにして家庭でごみを減らしていくかという話では、市民は家で分別を頑張っているのに、事業者ももっとごみを分別して減らして欲しいという意見がある。全ての事業者ではないが、もっと事業ごみを分別してくれたら環境は良くなる。このように、市民は事業者をよく見て、期待していることをお分かりいただきたい。環境教育ではよく地球は皆のもので未来に残していこうと言うが、仙台市だけではなく地球という観点でも、市民も事業者も一緒に取り組む必要がある。ぜひ市民の期待も伝えてもらいたい。</p>
廃棄物事業部長	<p>市民は事業ごみの排出状況をよく観察しており、事業者にも期待していると思う。</p> <p>先ほどの環境配慮型店舗・事業所のように、しっかりごみ減量に取り組んでいる事業者の利用を促すことも含め、もっと市民に向けて広報してまいりたい。</p> <p>例えば、サンモール一番町商店街加盟店には仙台市中心部の美化に取り組んでいただいております。許可業者にも美化やごみ減量を進めていただいている。そういった個々の取組みの情報だけでは弱いかもしれないが、市も市民も事業者も一体となり、まちぐるみで協働してごみの減量や分別、美化に取り組むことについて、皆さまの知恵を借りながら、情報を届ける仕組みを引き続き考えていく。</p>
渡邊浩一委員	<p>次の議題にも関わるが、ごみの組成について意見がある。少子高齢化とペットブームにより、近年おむつやペット砂が増えてきており、ごみの重量が増えている。業界としては、一生懸命ごみ減量に取り組んでいるものの、重量が重い物が阻害し、数値的にはごみ量がなかなか減っていかないのではないかと考察している。仙台市でも分析を行い、減量に向けた体制を構築してもらいたい。</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>焼却施設における展開検査を今後強化していくと説明したが、具体的には現在は年に6日程度実施している検査を原則毎日実施可能となるような体制を構築していきたいと考えている。その中で、どのようなごみがどれくらい増えているのかを分析していく。</p> <p>仙台市だけではなく全国的に少子高齢化や人口減少の進行への対応を求められている。実際の排出状況を踏まえ、かつ、本市も様々な知見を集め、実際に収集にあたる許可業者とも十分に意見交換し、望ましい適正処理や広報・啓発の方法について引き続き検討してまいりたい。</p>
<p>議長（吉岡会長）</p>	<p>この審議会で処分手数料額を確定するわけではなく、まずは案を示し委員のご意見を頂戴したということだが、最終確認しておきたいことが一点ある。</p> <p>資料では各政令市の負担率を示しているが、他政令市と比較して仙台市の負担率が低いことが今回の改定の背景では決してないということだ。他都市がどのような状況だとしても、負担率の適正化やごみの減量が改定の背景だということを委員にもご承知おきのうえで議論いただいたと認識している。</p> <p>また、処理施設の建設や改修に係る費用もごみ処理原価の計算に含められることについては、仙台市には使用が長期化している施設もあるので、施設の長寿命化等の視点も踏まえたうえで改定額を示したということだ。</p> <p>今回いただいたご意見を踏まえて事務局で再検討し、次回審議会の議事の対象としたいので、意見のある場合には事務局に改めて伝え、次回まで検討してもらおうという進め方とする。</p> <p>それでは、他にご意見等はないようなので、議事(1)「事業ごみ等処分手数料の見直しについて」を終了する。</p> <p>続いて、議事(2)「WAKE UP (ワケアップ) ! 仙台」秋の集中キャンペーンについてに移る。事務局より資料2に基づき説明をお願いします。</p>
<p>ごみ減量推進課長</p>	<p>【資料2について説明】</p>
<p>菅野澄枝委員</p>	<p>レジ袋の削減に関する懇談会に出席した際にワケアップについては聞いていた。懇談会では、市民と事業者と市の三者が手を取り合ごみ減量に向けて動いていこうという市民協働という趣旨でキャンペーンを展開してきた。</p> <p>事業ごみも重要だが、やはり家庭ごみの減量に向けた啓発が大切だと考えており、社会学級研究会としても引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>リサイクルで大切なのは現場だと考えており、事業主への説明も必要だが、そこから現場に落とし込む力が大切である。許可業者には、きれいな状態で回収してもらいたいと排出者が思えるような気持ちのよい対応をしてもらっており、いつも感謝している。集団資源回収も楽しい気持ちで取り組んでいる。</p> <p>また、ワケアップキャンパスの大学生が活躍しているのもうれしい。レジ袋削減についても、レジ袋にこだわることなく、環境問題をはじめごみの削減に向けて活動していきたいので、末永く支援いただきたい。</p>
<p>佐藤貞子委員</p>	<p>先日、テレビに市長が集積所を訪問しているところが映っていた。そのようにマスコミに取り上げてもらうと、市民も関心が湧くのではないかと。非常に良いことだと思うので、定期的には難しくとも都合がついた時に市長にも出演してもらい、広く市民に見てもらおうと良いのではないかと。今後も引き続き取り組んでもらいたい。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>ありがたいご意見だ。これまでも類似のキャンペーンを実施してきたが、今後は振り返りが大事だと考えている。今回の方法で良かったのか、また、地域</p>

伊藤道子委員	<p>の方から見ると他の地域のより良い取組みがあったのではないかなど振り返りを行いたい。</p> <p>今回は走りながら考え実施したが、次回は走り出す前に地域の方や許可業者、委託業者、事業者、環境団体等と意見交換をして、今回の取組みを振り返りながら、さらに大きく発展させていく工夫が重要だと考えている。今後ご助言をお願いしたい。</p> <p>MELON はスポーツイベント会場でのごみの減量に初めて取り組んだ団体だ。初めはベガルタ仙台で実施し、現在ではほとんどのスポーツ会場で取組みが定着しており大変うれしい。</p> <p>個人的な経験だが、外国人留学生の排出マナーが悪いということで、日本語学校から依頼されて仙台市のごみ分別方法について授業をしたことがある。その時に留学生と話して、ごみに対する感覚が全く異なると感じた。市内には複数の日本語学校があると思われ、多くの留学生が入学する4月や10月に集中的に講師を派遣し行政主導で丁寧に分別方法を教えることが大切だ。</p>
堀江俊男委員	<p>今回のキャラバンにおける町内会との連携について、町内会代表としては、きつい言い方だが上辺だけではないかという感想を持った。もっと中身の濃い指導をしてもらいたいとも思っている。</p> <p>集積所を管理している町内会は非常に多く、家庭での分別指導も町内会で自主的に行っている。市からはちらしの配布程度の依頼しかこない。もう少し町内会組織を活用すると、分別や排出方法改善に効果があると考えている。むしろ、積極的に活用すべきだ。</p> <p>仙台市は108万都市ではあるが、町内会組織を活用したキャンペーンができると考えている。次回取組みについて、どのような考えを持っているのか。</p>
廃棄物事業部長	<p>地域の皆さんと一緒に取組みを行う際には、町内会との連携を強めることが重要であると考えている。</p> <p>今回のキャラバンは市連合町内会長会に説明させていただいたが、地域向け出前講座の実施方法についても、市がアンテナを高くして様々な場面に外向き、自ら汗をかいて説明していくことが大切だ。そのような機会を捉えていきたい。ご協力をお願いしたい。</p>
議長（吉岡会長）	<p>堀江委員のご発言は、町内会が間を取り持つという前向きなものと認識した。事務局には町内会との連携による市民啓発を進めていけるよう、より具体的な策を練ってもらいたい。</p>
齋藤孝三委員	<p>集団資源回収事業の開始時からずっと携わっている。仙台市は他都市と比べ、家庭系の資源物の回収をきちんと行っていると思う。紙類の回収については、少子高齢化の中、集団資源回収だけではなく拠点回収や定期回収など様々な形で実施し高齢者にも手を差し伸べている。</p> <p>事業系については、事業系の収集運搬に携わっているのでよく見ているが、きちんと分別している事業者がいる一方、段ボールをたくさん出している事業者もいる。</p> <p>菅野委員のご意見にもあったが、現場の最先端で働く者が事業者の説明することにより、排出状況は変わっていくと考える。また、出前講座についてのご意見もあったが、業界でも出前講座を数多く行っているもので、ぜひお声がけいただきたい。</p>

<p>松八重一代委員</p>	<p>集中キャンペーンは素晴らしいが、伊藤委員のご意見のように、外国人留学生や震災以降に市外から転入してきた方は、各自治体で分別ルールが異なるために一生懸命やっても、対応が難しいことがある。例えば、仙台市のプラスチック製容器包装は、他自治体ではプラスチックとして分類しているところもある。分別のルールが分かりにくいということも、ごみの減量がうまくいかない要因の一つになっていると考えられる。</p> <p>先日、宮城県の3Rに関するシンポジウムに出た際、震災後に宮城県全体としてもごみ排出量が増加しているという傾向があると聞いた。したがって、震災以降のごみ量増加は仙台市のみの問題ではないと思うが、仙台市における一つの要因として新規流入者には分別ルールがわかりにくいという問題があると考えられる。</p> <p>また、ごみ分別促進アプリ「さんあ〜る」の紹介があったが、特に若年層に対して効果的だ。大学は学生の流入と流出を繰り返す場所だが、学生にとってアプリというツールは比較的効果的だと思う。残念なことに仙台市版さんあ〜るに外国語版はまだないが、外国人に分別ルールを徹底させるのも重要である。</p> <p>これは大学側で反省すべきことかもしれないが、新規流入した外国人留学生に大学としてごみ分別ルールを教育する機会がないことと、家庭と大学で分別ルールが異なることも混乱を引き起こす要因になっていると考えられる。</p>
<p>遠藤智栄委員</p>	<p>資料2で、仙台市の一人一日分の家庭ごみ排出量は政令市中10位というポスターが紹介されており、2位の広島市は仙台市より100g以上も少ないことに衝撃を受けた。この差を知人等と話し合った際に、仙台市は農村部が多く生ごみが多いとか、それは広島市も一緒だとか様々な意見が出た。仙台市と広島市の都市としての性質は比較的似ていると思うが、何が要因なのか答えが見つからなかった。広島市を一つの対象と見なして、市民や環境団体、市と一緒に分析したり学習したりし、学習と実践を混ぜた取組みを行ったら興味深いのではないか。</p>
<p>ごみ減量推進課長</p>	<p>広島市の特徴的な取組みとしては、家庭ごみ袋が紙製であるということがよくあげられる。紙袋だと自然と生ごみの水切りをするようになり、家庭ごみが軽くなる。そのような取組みで生ごみ重量を軽くするほか、最近では食品ロスに関する施策も併せて行っていると聞いている。</p> <p>どんな取り組みにより100g以上排出量を減らせるのか、1位の大阪市の取組みのほか、特に都市規模や性質が似ていると思われる広島市を目標に勉強させてもらいながら、実施可能な取組みを導入してまいりたい。</p>
<p>議長（吉岡会長）</p>	<p>ポスターの「なんと10位」は、肯定的、否定的のどちらの意味での「なんと」なのか。</p>
<p>ごみ減量推進課長</p>	<p>昨日実施した市民まちづくりフォーラムというイベントの中で、参加した市民にポスターを評価してもらった際にも、「なんと第10位」は良いのか悪いのかどのように受け止めたらよいかよくわからないというご意見をいただいた。</p> <p>よく見ると、ワケルくんのセリフに「まだまだごみは減らせる、ごみを減らそう」と書いてはあるが、厳しい評価をいただいた。</p> <p>私どもの意図としては、杜の都や環境都市という仙台市のイメージが一定程度は定着している中で、それにも関わらずごみ量は政令市の真ん中くらいというのは残念という趣旨だったが、意図どおりに受け止めた方は少ないと改めて感じた。来年度以降もこのようなポスターを作成する場合には、様々な方のご意見を聞いて作成したい。</p>

議長（吉岡会長）	<p>一人一日あたりの家庭ごみ排出量は、各市でどのようにデータを取るかによって異なる。広島市と仙台市とのデータの取り方の違いなど、解析すべき点はあるが、数字だけ比較したものを並べるとポスターのとおりの結果となる。排出量の差の理由については、もう一度考えなければならない。</p> <p>それでは、他にご意見等はないようなので、議事(2)「平成 28 年度のごみ減量・分別について」を終了する。</p> <p>議事(3)「その他」について、委員の皆様よりご意見等はあるか。</p>
議長（吉岡会長）	<p>皆様からご意見等はないので、私から質問する。バイオ系廃棄物のウエストエナジーという考え方について、環境省の事業の一環として、各自治体の取組みを紹介するシンポジウムを先月末に仙台市で開催した。その結果、生ごみをきちんと分別してエネルギー化または資源化する取り組みは、西日本が盛んで東日本は弱いという印象を受けた。</p> <p>生ごみを焼却すると施設に対する負荷にもなり、生ごみを資源として処理することは、全体的なごみ排出量を減らす上でも重要な視点になってくると考える。現状、仙台市で生ごみを処理する方法としては、たい肥化センターまたは民間施設の利用の2つの方法があるが、特筆すべき施策があれば教えてもらいたい。</p>
廃棄物事業部長	<p>食品残渣については、市のたい肥化センターで学校給食残渣を処理しており、他には民間施設でも処理を行っている。焼却施設における処理は施設への負荷があり燃焼効率も悪くなる。また、水分を含む生ごみによりごみ量は重くなる。</p> <p>そういった意味では、焼却ではなくリサイクルに回す仕組みがさらにあればと考えている。現状としてはこの2施設の取組みとなっている。</p>
議長（吉岡会長）	<p>仙台市はワケルくんを用いた分別の取組みは先進的だったが、食品リサイクルについては他自治体に追い抜かされているという印象だ。ぜひ仙台市でも今後検討の俎上に載せてもらいたい。ごみ処理費用の負担のあり方についても、そういった取組みを踏まえた長期的な視点で検討いただきたい。</p> <p>それでは他にご意見等はないようなので、議事(3)「その他」を終了する。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返しする。審議の円滑な運営にご協力頂き感謝申し上げます。</p>
司会	<p>以上により、閉会する。</p>